

SCOUTING JAPAN

[団体案内]

公益財団法人
ボーイスカウト日本連盟
SCOUT ASSOCIATION OF JAPAN



www.scout.or.jp

 **SCOUTS**
Creating a Better World

そなえよつねに
ボーイスカウト

なろう。一人前に。

生命を尊重する心、仲間と話し合って協力する心、モラルや正義感、自然や美しいものに感動する心などが子どもたちの「生きる力」の基礎となります。

少年期、青年期の問題が社会の関心と注目を集めている今、子どもたちをより良い方向に導いていくために、地域社会の教育力に目が向けられています。

このような状況の中で、ボーイスカウトの果たす役割はきわめて大きく、私たちは、社会の期待に応える責任と使命があると考えています。

社会奉仕活動や自然の中での体験などを多く取り入れた、ボーイスカウトのさまざまな活動をとおして、青少年の健全な心と体の育成に貢献したいと、私たちは、強く願っています。



ボーイスカウト運動の教育

世界共通のビジョン

「Creating a Better World」

ボーイスカウトは、世界の174の国と地域、5,700万人以上の加盟員がいる、世界最大級の青少年教育運動で、「Creating a Better World(より良い世界をつくる)」を世界共通のビジョンに掲げています。

このビジョンのもと、青少年が自発活動によって、自らの健康を築き、社会に奉仕できる能力と人生に役立つ技能を体得することを通じて、誠実、勇気、自信および国際愛と人道主義を把握し、実践できる人材を育てること、簡単に言えば「より良い社会人の育成」を運動の目的としています。

モットーとスローガン

ボーイスカウトには上記のビジョンのほかに、モットーとスローガンがあります。

〈モットー：そなえよつねに〉

いつでもどんなことにも困らないよう、ひとのためにも自分のためにも準備をしておきます。常に準備をしていることで、何がおきてもすぐに応じられるという心構えができます。

そして、スカウティングに励むことは未来の準備になり、将来、より良い社会人として活躍するときに、自分自身のためにも社会のためにも役立ちます。

〈スローガン：日日の善行〉

スカウトは、毎日、進んでよいことをします。自然の恵みや社会から受ける恩恵に対してお返しをするために行うもので、どんなに小さなことでも自分が良いと思うことを実行します。

ボーイスカウト運動の特徴

スカウト運動(スカウティング)の特徴は、「ちかい」と「おきて」の実践を通じて社会に貢献することを基本とし、異年齢の少人数グループに分かれて活動する「班制教育」と、進級制度や技能章といった「進歩制度(バッジシステム)」を設け、野外での活動を中心に、青少年の自主的な取り組みを促す教育システムにあります。また、「人格」「技能」「健康」「奉仕」を4つの柱として、スカウトだけでなく成人指導者も自己研鑽に励みます。



年齢区分と少人数グループ

年齢ごとに「隊」というグループを設け、それぞれの成長段階に合ったプログラムを用意しているのもボーイスカウトならではの点です。

小学校低学年(1~2年生)は「ビーバースカウト」、中高学年(3~5年生)は「カブスカウト」、小学6年生から中学3年生を「ボーイスカウト」、高校生年代(中学3年生の秋~)を「ベンチャースカウト」、18歳以上25歳以下を「ローバースカウト」としており、「隊」ごとに活動目標やモットーなどを設けています。

「隊」の中にはさらに少人数のグループ単位「班(または組)」があり、6~7人の異年齢の青少年で構成します。一人ひとりが活動のために役割を分担し、全うすることで、指導力や責任感といったリーダーシップ、協調性などを養います。

野外活動と信仰心

ボーイスカウトというと、キャンプなどの野外活動を思い浮かべる人が多いと思います。ボーイスカウトが野外(自然)を教場としているのは、キャンプやハイキングなど野外での活動を通じて、大自然からさま

ざまなことを学ぶということを意図しているからです。なかでも、大自然の神秘に触れ、人知の及ばぬ強大な力を感じる時、創造主としての神を信じ、仏の加護に感謝する気持ちが生まれ、自然に信仰が芽生え、育っていきます。

とはいえ、ボーイスカウト運動は特定の宗教や宗派に偏らず、政治性もありません。ただし、スカウトや指導者が自らの信仰をもつことを奨励しています。世界にはイスラム教やキリスト教、仏教などのさまざまな宗教を信仰するスカウトがいますし、日本でも神社やお寺、教会などが母体となってボーイスカウトの団を設立し、運営しているところがたくさんあります。

「ちかい」と「おきて」の実践

「ボーイスカウト(小学6年生~)」になるときには「ちかい」を立てます。それ以降が本格的なボーイスカウト活動といえます。「ちかい」は、自分自身に対して誓うものであり、「おきて」は毎日の生活のモノサシとして、自分の行動を律するものです。「ちかい」と「おきて」の実践は、どのようなとき、どのような場においても、活動するうえでの基盤となります。

— ちかい —

私は名誉にかけて
次の三条の実行をちかいます

- 一、神(仏)と国とに誠を尽くし
おきてを守ります
- 一、いつも他の人々をたすけます
- 一、からだを強くし心をすこやかに
徳を養います

— おきて —

- 1 スカウトは誠実である
- 2 スカウトは友情にあつい
- 3 スカウトは礼儀正しい
- 4 スカウトは親切である
- 5 スカウトは快活である
- 6 スカウトは質素である
- 7 スカウトは勇敢である
- 8 スカウトは感謝の心をもつ



ボーイスカウト運動が育む人間性

環境教育

スカウトたちにとって森や川、海といった野外のフィールドは活動の舞台です。100年以上前にスカウト運動が発足してから今日に至るまで、スカウトたちは野山や森林を訪れ、自然を友とし、自然に親しむ能力や心を育ててきました。こうした活動の中で、スカウトは自然愛護の具体的な方法を身につけ、環境問題を身近なこととしてとらえています。

地球環境の保全が叫ばれる今日、このようなスカウトの姿勢は新たな角度から再評価されており、ボーイスカウトでは毎年9月の敬老の日を「スカウトの日」として、全国で「環境」を中心としたさまざまなテーマの奉仕活動を展開しています。

友愛の精神

現在の日本は、かつてないほどの自然災害や世界規模の経済不安などに直面し、さまざまな場面において地域社会との連携や協力が重要になっています。また、国内だけでなく、近隣諸国や世界においても同様に、協調や協力による課題への取り組みが求められる時代です。

ボーイスカウトでは、子どもたちが自分の役割を見つけて他者と協力したり、自分にできることを考え積極的に行動したりすることで、自分が誰かの役に立てるということを自分の喜びと思えるようになるなど、各種活動を通じて、さまざまな知識や技能を磨くだけでなく、心(精神)の醸成を図ります。

さらに、ボーイスカウトは世界中の仲間と力を合わせながら、より良い世界を築くための活動を推し進めているグローバルな青少年団体であり、国際理解や国際協力プログラムを積極的に展開し、世界各国との交流活動や支援活動を行っています。

国際協力においては、それぞれの部門で各年代に応じたプログラムを展開することにより、子どもたちの関心を広く世界に向け、将来大きくはばたく「地球市民」へと成長することが期待できます。

特に、18歳以上のローバースカウト年代は、これまでにバングラデシュやウガンダなどを訪れ、現地のスカウトと協働しながら国際プログラムを展開してきました。さらに、韓国や台湾のスカウトと3か国協働での国際プログラムを行うなど、国内外でさまざまな活動を展開しています。

ボーイスカウト運動の国際性

世界とのつながり

ボーイスカウトは、現在、世界スカウト機構に174の国と地域が正式加盟し、5,700万人以上が活動する世界的な青少年育成団体です。運動の目的や教育システムは世界共通で、名称も世界中で「ボーイスカウト」または「スカウト」と呼ばれています。1920年に国際事務局がロンドンに開設されて以来、性別、人種、宗教、言語などのあらゆる違いを超えて世界中の青少年の友愛を深めることを目指した活動が積極的に展開されています。

これまでに、2億5,000万人以上の人々が人生の一時期においてスカウト運動を経験し、それぞれの社会で有能な一員として活躍しており、この運動の実績は高く評価されています。この数字は、ボーイスカウト運動が世界的規模で発展していること、その意義が広く世界に認められた証といえます。

さまざまな交流の機会

ボーイスカウトでは、日ごろの活動に加え、さまざまなキャンプ大会や奉仕活動、交流事業などを展開しており、さまざまな活動で培った知識や技能を発揮

するとともに、多くの仲間たちと友情を深めます。

日本の大会で最も規模が大きいものは4年ごとに開催している「日本スカウトジャンボリー」で、野外を主な教育の場として学び、相互理解や国際親善を図ります。この大会は、全国47都道府県から1万数千人が一堂に会し、海外からも多くの参加があります。2018年には石川県において第17回日本スカウトジャンボリーを開催し、およそ1万3千人が集いました。2022年の第18回大会は東京での開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響から全国で分散型の開催とし、およそ250会場で1万4千人以上が参加しました。

このほか、やはり4年周期で「世界スカウトジャンボリー」が開催されます。2015年の第23回世界スカウトジャンボリーは日本で開催され、山口県に世界155の国と地域から約3万4,000人が集まりました。また、世界各地で行われる各国の「ナショナルジャンボリー」などにも日本からスカウトや指導者を派遣しています。さらに、短期留学やホームステイの受け入れ、各種大会や支援を必要とする国で行うプログラムなど、さまざまな形で国際交流を行うことができます。



© WSB Inc. / Jean-Pierre POUTEAU



Beaver Scout

ビーバースカウト

小学校1年生の4月から
(就学直前の1月から仮入隊できる)

Cub Scout

カブスカウト

小学校3年生の4月から

Boy Scout

ボーイスカウト

小学校6年生の4月から

Venture Scout

ベンチャースカウト

中学校3年生の9月から

Rover Scout

ローバースカウト

18歳から25歳

ボーイスカウト運動の組織と構成

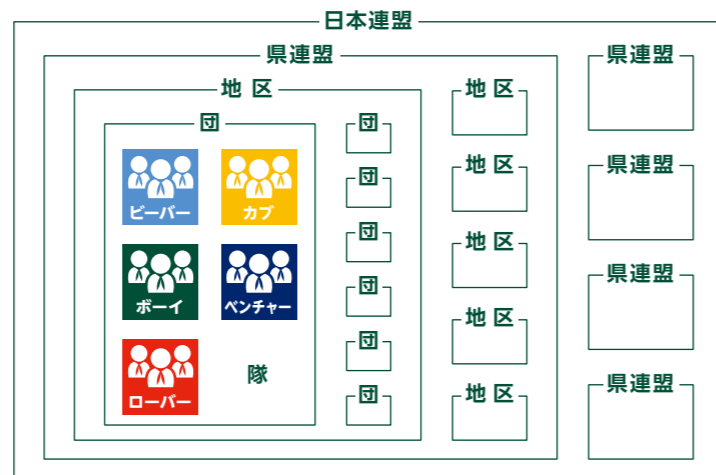
地域で活動する組織の基本は「団」です。団を運営する「団委員会」が活動の方針や予算を決め、地域の協力者や保護者によって組織された「育成会」が団を財政的に支えています。

団にはスカウトの年齢(成長段階)ごとに分けられた「隊」があります。隊は、活動の基本単位である少人数の「班」(カブスカウトは「組」、ビーバースカウトは隊全体で活動)に分かれています。

現在、47都道府県それぞれに「県連盟」があり、団は原則として県連盟に所属します。大きな都道府県では「地区」に分かれて運営しているところもあります。北は北海道稚内から南は沖縄県石垣まで全国的に活動を展開しており、各県の自主性と独自性を重んじ、特色を生かして地域に根差した活動を行っています。

1995(平成7)年以降、日本のボーイスカウトでは、

女子も活動に参加しています。同じユニフォームを着用し、キャンプやゲーム、奉仕など多岐にわたる活動を男女ともに行っています(宿泊時には男女のテントを分けるなどの配慮を行います)。



研修を受けたボランティアによる指導者

活動の指導にあたる約3.4万人の指導者は、保護者などを中心とするボランティアです。職業や年齢、知識や技能、経験はそれぞれ異なりますが、皆、ボーイスカウト運動に関する知識や技能等を学ぶ研修を受けて活動しています。2017(平成29)年度からは、より安全で安心な活動の環境を築き、維持するための「セーフ・フロム・ハーム」という研修の受講を義務付けており、指導者は、毎年これを受講します。

この研修では、スカウト同士、スカウトと大人、大人同士、それぞれの関係におけるトラブル回避や、

万一トラブルが発生した際の対応方法などを学びます。このほか、日本連盟ではセーフ・フロム・ハーム専用の相談窓口を設けるなどの対策も講じています。

また、指導者は役割に応じて実践的な研修を修了することが求められます。それらの研修を受けた人たちが、スカウトの活動をサポートし、成長を見届けます。



Leader

指導者
18歳以上



創始者
ロバート・ベーデン-パウエル卿
(1857-1941)



歴史的な実験キャンプ
1907年、創始者ロバート・ベーデン-パウエル卿がイギリスのブラウンシー島に20人の少年たちを集めて実験キャンプを行いました。これがボーイスカウト運動の始まりです。



1921年、イギリスのボーイスカウトの大集会における昭和天皇(当時、皇太子)

ボーイスカウト運動の歩み

ボーイスカウトは、ロバート・ベーデン-パウエル卿(以下、B-P)によって1907年に始まった運動です。かねてから少年たちの教育に大きな関心を寄せていたB-Pは、少年たちがさまざまな野外教育を通じて男らしさを身につけ、将来社会に役立つ人間に成長することを願い、インドや南アフリカでの自身の体験をもとに、イギリスのブラウンシー島で20人の子どもたちと実験キャンプを行いました。

翌年、『スカウティング・フォア・ボーイズ』という本を著し、キャンプ生活や自然観察、グループでのゲームなどで少年たちの旺盛な冒険心や好奇心を発揮させ、「遊び」とおして少年たちにリーダーシップを身につけさせようとした。この本がベストセラーになり、それがきっかけでこの運動が世界に広がりました。

日本には1908(明治41)年に伝播し、全国各地でさまざまな少年団が数多く作られました。その後、全国的な統一結成の動きや昭和天皇からの後押しなどがあり、1922(大正11)年4月13日に現在のボーイスカウト日本連盟の前身である「少年団日本連盟」が創立され、ボーイスカウト国際事務局に正式加盟し、世界の仲間入りを果たしました。

日本における主な出来事

- 1922(大正11) 少年団日本連盟設立 総裁 後藤新平、理事長 二荒芳徳
- 1935(昭和10) 法人格を取得し、財団法人大日本少年団連盟に名称変更
- 1941(昭和16) 政府方針により、大日本少年団連盟は、他の青少年団体とともに大日本青少年団に統合
- 1947(昭和22) ボーイスカウト日本連盟臨時中央理事会設立(戦後再建)
- 1949(昭和24) 財団法人ボーイスカウト日本連盟として再発足
- 1956(昭和31) 第1回日本ジャンボリー開催(長野県軽井沢)
- 1958(昭和33) 財政運営団体(財団法人ボーイスカウト日本連盟)と教育推進団体(任意団体ボーイスカウト日本連盟)とに組織を分割
団制度開始
- 1970(昭和45) ボーイスカウト会館設立(東京都三鷹市)
- 1971(昭和46) 第13回世界ジャンボリー開催(静岡県朝霧高原)
- 1972(昭和47) 沖縄のスカウト運動、日本連盟に正式移行
- 日本連盟結成50周年記念事業(明治神宮会館で開催した中央式典に昭和天皇ご臨席)
- 1973(昭和48) 財団法人ボーイスカウト日本連盟に組織を一体化、試験研究法人指定
第1回日本アグーナリー(国際障がいスカウトキャンプ大会)開催(愛知県青少年公園)
- 1982(昭和57) ボーイスカウト運動創立75周年
ボーイスカウト日本連盟創立60周年記念事業
- 1986(昭和61) ビーバースカウト部門発足
- 1995(平成7) 全部門への女子の加入を認める
- 1997(平成9) ボーイスカウト日本連盟創立75周年中央式典開催(東京都日比谷公会堂)
- 2007(平成19) 世界スカウト運動創始100周年記念事業を実施
- 2010(平成22) 財団法人から公益財団法人に移行
- 2011(平成23) ボーイスカウト会館移転(東京都文京区)
- 2012(平成24) ボーイスカウト日本連盟創立90周年事業を実施
- 2015(平成27) 第23回世界スカウトジャンボリー開催(山口県阿知須きらら浜)
- 2018(平成30) スカウト会館移転(東京都杉並区)
- 2022(令和4) ボーイスカウト日本連盟創立100周年事業を実施

ボーイスカウト日本連盟

創立 大正11年4月13日

法人許可日 昭和10年7月1日(財団法人)

公益財団法人認定 平成22年4月1日

目的 世界スカウト機構憲章に基づき、日本におけるボーイスカウト運動を普及し、その運動を通じて青少年の優れた人格を形成し、かつ国際友愛精神の増進を図り、青少年の健全育成に寄与することを目的とする。

- 事業**
- ① ボーイスカウト運動の普及及び広報
 - ② ボーイスカウト運動の教育計画の策定及び運営
 - ③ 指導者の養成
 - ④ 国際相互理解の促進及び国際協力
 - ⑤ 地球環境の保全・保護及びその教育
 - ⑥ ボーイスカウト教育の特長を活かした自然体験活動等の推進
 - ⑦ 教育に必要な施設の提供
 - ⑧ 集会及び講演会の開催
 - ⑨ 図書、雑誌等の刊行並びに電子媒体による情報の発信及び受信
 - ⑩ 教育に必要な用品の調製及び供給
 - ⑪ 安全普及啓発活動と共済制度の運用
 - ⑫ その他目的達成のため必要な事業



2018年、第17回日本スカウトジャンボリーにご来臨。第7回大会より欠かさずお越しになられ、スカウトにおことばを賜ってきた。

日本連盟の施設



スカウト会館/ スカウトライブラリー

〒167-0022
東京都杉並区下井草4-4-3
TEL 03-6913-6262
HP <https://www.scout.or.jp>

2018年に東京・文京区本郷より移転。貴重な書籍等の閲覧が可能なスカウトライブラリー（金・土・日の午後のみ開館）のほか、会議室を有する事務所。



那須野営場

〒329-2756
栃木県那須塩原市西三島7-334
TEL 0287-36-0708

1950年の設置以降、多くの指導者訓練を開設してきた約1万6,000坪の野営場。かつての山中野営場に続く指導者訓練のメッカとして現在に至る。



やまと 大和の森 高萩スカウトフィールド

〒318-0104
茨城県高萩市中戸川字菖蒲尻412
TEL 0293-44-3551

大和ハウス工業株式会社より寄贈を受け、2017年にグランドオープンした約82万坪の広大な野営場。指導者訓練のほか、地域社会と共生する施設として各種事業を展開。

私たちもボーイスカウトです



奥島 孝康
元 早稲田大学総長



日枝 久
フジサンケイグループ代表



水野 正人
ミズノ株式会社相談役会長



大坪 文雄
パナソニック株式会社特別顧問



岡谷 篤一
岡谷鋼機株式会社取締役社長



野口 聡一
元 JAXA 宇宙飛行士



宮川 大輔
タレント



岡田 武史
FC今治オーナー
元 サッカー日本代表監督



清宮 克幸
日本ラグビーフットボール協会副会長

